



1月給食だより



食べ物や食にかかわる人たちに感謝しよう



1月24日から30日は全国学校給食週間です。多賀小学校では、この週間に、時代ごとの献立を取りいれました。時代の移り変わりとともに学校給食も変化していることを知り、今の学校給食について考える機会にしましょう。

日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町の忠愛小学校で貧困児童を対象に無料で食事を提供したこと

がはじまりとされています。その後、戦争の影響で中断されましたが、戦後の食糧難による子供たちの栄養状態の悪化を背景に、学校給食は再開されました。今では、食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向などの健康状態についての問題が多くみられます。学校給食は、子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。



【明治22年】おにぎり、塩鮭、菜の漬物
(出典:独立行政法人日本スポーツ振興センター)

おじいちゃん・おばあちゃんの頃は、どんな給食だったかな？



<農林水産省 HP>

家でも 自分でお茶をいれて 飲んだよ！

5、6年生は、JA 富士伊豆の方を講師に招き、静岡茶講座を行いました。講話では、静岡茶の歴史、やぶきた茶という品種、同じ濃さのお茶を淹れるための「廻し注ぎ」、最後の一滴まで注ぐことなどを学びました。静岡茶を急須で淹れる体験もしました。慣れた手つきの人、慎重に丁寧に淹れる人など様々でしたが、自分たちで淹れた静岡茶を味わう時は、みなおいしそうに飲んでいました。「一煎目が一番濃い味がした」「お茶の淹れ方が知れて勉強になった」「お茶の樹は1本から始まったことに驚いた」などの感想が聞かれ、静岡茶の理解が深まった講座となりました。



※他にも、多賀小のホームページ「多賀っ子の給食」で紹介しています。